

## 論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Association between nausea and vomiting of pregnancy and postpartum depression: the Japan Environment and Children's Study.

和文タイトル: 妊娠悪阻と産後うつの関係: エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 高知UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of Psychosomatic Obstetrics & Gynecology

年: 2020 月: 3 巻: 頁:

筆頭著者名: Muchanga Sifa Marie Joelle

所属UC名: 高知UC

目的: うつの既往のない妊婦さんにおいて、つわりの重症度と産後うつの関係性を調べる

方法: 産後1カ月までの全国データに登録された104,102人から選別された80,395人の妊婦を対象とした。アウトカムの評価にはエジンバラ産後うつ質問票、危険因子には受胎から妊娠12週までのつわりを用いた。共変量には精神疾患の既往歴、心理社会的因子、有害妊娠アウトカム、出生アウトカム、社会人口統計学的因子、行動因子を用いた。関連性の解析にはロジスティック回帰分析を行った。

結果: 本研究では80,396人のうち産後うつに罹患した妊婦は14%であった。そのうち4,640人(42.1%)は軽度、3,295人(29.9%)は中等度、1,481(13.4%)が重度のつわりであった。すべてのつわりの程度と産後うつとで関連性が認められ、つわりの程度が増すほど産後うつのオッズ比は増加した。aOR:1.26;95%CI:(1.18-1.35)軽度、aOR:1.28;95%CI:(1.19-1.38)中等度、aOR:1.54;95%CI:(1.42-1.68)重度。

考察:(研究の限界を含める)  
本研究は日本における全国出生コホート研究でつわりと産後うつの関連性を検討した初めての研究である。重度の妊娠悪阻を有する妊婦さんは産後うつをより発症するという結果であったが、これは妊娠悪阻とストレスとの関連性が報告されている。また産後うつをEPDSというツールを使用していることでより客観的な解析結果が得られた。しかし、本研究では妊娠中の妊婦さんの健康状態を評価できておらず、今後これらの指標との関連性も検討することは重要である。

結論: つわりが産後うつと関連することが示された。また、つわりの重症度が増すにつれて、産後うつのリスクが増えることが示された。